

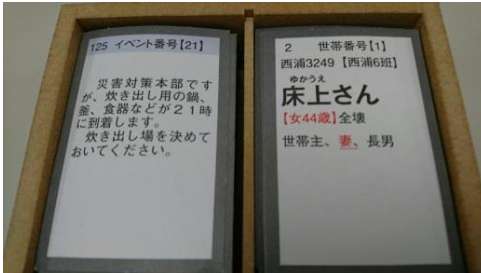


全国国立大学附属学校PTA連合会 平成28年度団体表彰エントリー

所属学校名	和歌山大学教育学部附属中学校		
PTA名称	育友会	会長名	竹川 裕之
事例名称	「震災時、保護者はどうすべきか『避難所運営カードゲーム』で学ぶ」		
<p>(活動内容) 日 時：平成29年2月16日(木) 13:00～15:30</p> <p>場 所：附属中学校 多目的ホール</p> <p>指 導：和歌山市危機管理局 危機管理部 地域安全課</p> <p>協 力：和歌山西警察署 警備課</p> <p>参加者：本校育友会役員・保護者・教職員、附属特別支援学校育友会役員、公立中学校PTA役員、近隣地区自治会・NPO役員、和歌山市連合自治会長、和歌山市職員、和歌山県警警察官など52名</p> <p>和歌山大学教育学部附属小・中学校は、海拔18mの高台にあり、和歌山市から津波・大津波警報発令時の緊急の避難所に指定されており、東南海沖大地震が起こった際には、近隣住民を含め約2,000人が避難することが想定されている。震災時には、生徒の安全を確保しながら、近隣住民を受け入れ、負傷者の救護、搬送など様々な出来事に迅速に対応する必要があり、そのために各関係部署が連絡を密にし、連携する必要がある。</p> <p>そんな中で、附属学校の保護者はどうすべきか、市の危機管理局に相談したところ、ぜひ初期段階での避難所運営を手伝って頂きたいとのことであった。</p> <p>そこで今回は、避難所運営カードゲームHUG（ハグ）を行い、附属学校関係者だけでなく、近隣の公立中学校の保護者、近隣の自治会の方々を含めて避難所運営について学び、大震災に備える絆づくりのきっかけとした。</p> <p>このゲームは、1グループ5～6名で、カードに書かれた情報を次々に読み上げ、避難してきた人達を避難所のスペースに迅速に割り振るゲームで、カードの内容は、普通の家族から独居老人、妊婦、負傷者、子を亡くした親、両親を亡くした子ども、ペット連れ、旅行者、外国人など、多種多様である。正解はない。救援物資が届くときもあり、時にはテレビ局の取材も入る。各グループとも頭を悩ませながら相談し合って決めていった。最後に結果発表と意見交換を行った。</p> <p>参加者のアンケートには、「震災に対しては、『物』の備えだけでなく、『知識』や『心』も備えておく大切さがよくわかった」とあった。</p> <p>今回をきっかけとして、今後も地域一体となった防災の取り組みを行っていきたい。</p>			
   			
<p>【上段、下段左 カードゲーム風景、下段右 カード一例】</p>			

※ 写真等を用いてわかりやすく記載してください。